

2017年7月14日

博士学位審査 論文審査報告書（課程内）

大学名 早稲田大学
研究科名 大学院人間科学研究科
申請者氏名 杉浦 真由美
学位の種類 博士（人間科学）
論文題目（和文） シナリオ型ビデオ教材と体験学習を組み合わせたブレンド型研修コースの
開発と効果の測定
論文題目（英文） Development and Validation of a Blended Learning Course Using
Scenario-Based Video Materials and Experiential Learning

公開審査会

実施年月日・時間 2017年6月19日・11:00-12:00

実施場所 早稲田大学 所沢キャンパス 100号館 第一会議室

論文審査委員

	所属・職位	氏名	学位（分野）	学位取得大学	専門分野
主査	早稲田大学・教授	向後 千春	博士（教育学）	東京学芸大学	教育工学
副査	早稲田大学・教授	西村 昭治	博士（人間科学）	大阪大学	教育情報科学
副査	早稲田大学・准教授	森田 裕介	博士（学術）	東京工業大学	教育工学
副査	早稲田大学・准教授	尾澤 重知	博士（知識科学）	北陸先端科学 技術大学院大 学	教育工学

論文審査委員会は、杉浦真由美氏による博士学位論文「シナリオ型ビデオ教材と体験学習を組み合わせたブレンド型研修コースの開発と効果の測定」について公開審査会を開催し、以下の結論を得たので報告する。

公開審査会では、まず申請者から博士学位論文について30分間の発表があった。

1 公開審査会における質疑応答の概要

申請者の発表に引き続き、以下の質疑応答があった。

- 1.1 質問：研究4の失敗体験研修を受講した研修生は、実際の失敗場面において研修で学んだことを活かすことができているのか。

回答：インシデントレポートの内容、部署の指導者からの意見によると、研修を受講した新人看護師は、失敗したとき「報告・連絡・相談」「患者への対応」が実践できている。研修では、まだ体験したことのない失敗場面を動画で示し、イメージ化を図った。そして、体験研修では、失敗体験をするにとどまらず、さまざまな相手の立場に立ち、失敗について考える構成であった。よって、失敗体験研修で習得した内容が現場で活かされいると考える。

- 1.2 質問：研究4で、「ビデオ」と「面白さ」の相関関係が示されている。ビデオ教材は「面白さ」につながるのか。

回答：ビデオは、当該現場で撮影され、研修担当者が新人看護師役、実地指導者役などを演じている。インストラクショナルデザインにおいて、正確なパフォーマンスコンテキストは、現場との関連性を高めるために有用とされている。ビデオの演者に対する親しみやすさも加わり、面白さにもつながったと考える。

- 1.3 質問：研究4で作成したビデオを他施設で使用した場合、同様に「面白さ」に変化がみられるのか。

回答：インストラクショナルデザインにおいて、リソースはできるだけ現実場面に近い形式で提供する必要性が示されている。例えば、急変時の対応も病院が異なれば、物の場所や使用する物品、方法も異なる。よって、本研究で作成したビデオを他施設で応用した場合「面白さ」の相関関係は低くなる可能性が考えられる。今後の検討課題としたい。

- 1.4 質問：一般の教育ビデオでは、失敗場面について取り上げられていないのか。

回答：看護教育のビデオ教材では、看護技術など成功場面が一連の流れとして示されており、失敗については提示されていない。こうした中、看護実践には文脈があり、目の前には患者がいる。そして、一連の流れの中には失敗しやすい部分がある。そのため、教育ビデオの中には、失敗したときどのような対応が必要なのか、構築されていることが望ましいと考える。

- 1.5 質問：シミュレーションと体験学習は同じものと考えてよいのか。

回答：研究の総括「継続教育におけるブレンド型研修コース開発のためのシステムアプローチ」において、体験学習は「新しい知識・技術・状況を疑似体験させたいとき」と定義している。指摘されたとおり、ロールプレイとシミュレーションは体験学習の中に含まれている。用語の定義をするとともに、論文中の表6-1を修正する必要がある。

- 1.6 コメント：研究1、研究2において、同じテスト問題で3時点調査を行っている。今回は、職種の違い、eラーニング指向性の違いについて検討するものであったためこの方法でもよい。しかし、同じテストを3回実施すれば得点上がる可能性がある。今後は、同じテストを実施するのではなく、対照群も取っておくとよい。

回答：指摘されたとおり、同じテスト問題を繰り返し実施することで、自然に知識が定着する可能性がある。今後、テスト問題の作成では、テストの時期によって設問のニュアンスを変えるなど、同等レベルで異なる問題を作成し検討していく。

- 1.7 コメント：前回の中間報告に比べて非常にわかりやすくなった印象である。

1.8 質問：研究1において、GBSに基づく研修はデザインに問題があり、放射線技師に効果が出なかった。今後、放射線技師に対するコンテンツは別途作成するのか、看護師に特化して研究していくのか。

回答：職種によって学習スタイルの好み異なることが想定される中、研究1では対象者のニーズ分析が不十分であった。こうした中、看護師と放射線技師は協働して業務を行うため、共に学び、互いの役割を理解することは重要と考える。今後、多職種を対象とした研修では、各職種のニーズ調査を行い、ニーズに応じた研修の設計、教材開発をしていきたい。

1.9 質問：研究3と研究4では、なぜシナリオ型にADDIEモデルを適用したのか。

回答：研究1と研究2では、研修で身につけてほしいことが前提となっており、学習者のニーズ調査が不足していた。ADDIEモデルのプロセスはニーズ調査が前提となっている。ニーズに応じた研修を設計するために、研究3と研究4ではADDIEモデルを適用した。

1.10 質問：研究3、研究4ともにシナリオの要素が入っているのか。

回答：入っている。

1.11 質問：今後、看護教育におけるPBLの適用について展望はあるのか。

回答：看護師は、現実の文脈の中でさまざまな問題に直面する。そのため、問題解決をするための学習環境を与えることは必要と考える。今後、問題解決志向を身につけるための教育について検討していきたい。

1.12 コメント：中間発表のときに比べて全体の流れがわかりやすくなり、改善されている。

1.13 質問：研究3のみ対照群がなかったのはなぜか。

回答：研究3で実践したプリセプター研修は、次年度プリセプターの役割を担う3～5年目の看護師を対象としている。参加必須の研修であり、対照群を設定することができなかった。

1.14 質問：研究3の効果測定には、なぜ「自信度」といった心理的尺度を使っているのか。

回答：研究3では、ニーズ調査で得られたデータに基づき「プリセプター資質尺度」を開発した。そして、本研究ではプリセプター資質尺度の下位尺度得点を「プリセプターに対する自信度」として扱っている。プリセプター研修を受講することにより、プリセプターの役割に対する自信がつくのか、研修前後における下位尺度得点の変化について検討した。

2 公開審査会で出された修正要求の概要

2.1 博士学位論文に対して、以下の修正要求が出された。

2.1.1 シミュレーションと体験学習は同じものと考えてよいのか。違いが不明瞭である。それぞれの定義を明示するとよい。

2.2 修正要求の各項目について、本論文最終版では以下の通りの修正が施され、修正要求を満たしていると判断された。

2.2.1 体験学習、シミュレーション、ロールプレイの定義について、第6章第1節に加筆した。

3 本論文の評価

3.1 本論文の研究目的の明確性・妥当性：本研究は、医療現場における継続教育の改善を目指し、インストラクショナルデザインの理論に基づく研修の開発および効果測定を通して、効果的なシステムアプローチについて明らかにすることを目的としている。実際に研修を設計、実践し、そのデータから効果検証を行うことを明確な目的として設定している。医療現場における継続教育を効果的かつ効率的なものに改善することは、重要な課題となっており、本論文のテーマはそれに合致する妥当なものと判断できる。

3.2 本論文の方法論（研究計画・分析方法等）の明確性・妥当性：本研究では、教育工学で提案されてきたいくつかの研修設計モデルを採用して研修を設計、実施し、その学習効果についてデータを取って検討している。これらのデータ収集については先行研究の手続きと知見に従っている。また、データ分析については、先行研究で妥当とされる統計分析手法で解析されている。これらのことから本研究の方法論は妥当なものであると判断できる。

なお、本論文で実施された研究はすべて、当該部署の所属長の許可を得て実施されたか、または、当該施設の倫理委員会の審査（刈谷豊田総合病院承認番号第 215 号平成 27 年 10 月 8 日）を受けて実施された。参加者には研究の目的、方法、期待される結果と参加者にとっての研究協力に関する利益、不利益を伝えた上で実施されており、倫理的配慮が十分になされていると評価した。

3.3 本論文の成果の明確性・妥当性：本研究の成果は、4 種類の研修コース（シナリオ型ビデオ教材と実習を組み合わせた研修コース、シナリオ型 e ラーニング教材とシミュレーションを組み合わせた研修コース、シナリオ型ビデオ教材とロールプレイを組み合わせた研修コース、シナリオ型ビデオ教材と失敗体験学習を組み合わせた研修コース）の学習効果をデータとして得ることで明確にまとめられた。また、その研修のどの側面が学習や動機づけに影響しているかについての示唆も得られた。これらの知見はブレンド型の研修に関する先行研究に照らしても妥当なものであると判断できる。

3.4 本論文の独創性・新規性：本論文は、以下の点において独創的である。

3.4.1 一般的に、e ラーニングと対面研修を組み合わせたブレンド型の研修の効果については知見が積み上げられつつある中で、本論文では、医療現場での実践の中での研究であり、実験室実験では得られにくいリアリティ及び実践性の高い研究知見を提示した。

3.4.2 研修について研究では単一の変数を操作する研究が多い中で、本論文では、シナリオ型ビデオ教材、ロールプレイやリフレクションなどを組み合わせた実践性の高い研修設計を行い、その効果を緻密に分析している。この点で新規性が高いと判断できる。

3.5 本論文の学術的意義・社会的意義：本論文は以下の点において学術的・社会的意義がある。

3.5.1 本論文は、ブレンド型研修の設計手法とその効果について実践的な知見を提供したという点において学術的意義があると考えられる。

- 3.5.2 本論文は、医療従事者を対象とした継続教育に対して貢献できる具体的な知見を提供しており、この点において社会的意義があると考えられる。
- 3.6 本論文の人間科学に対する貢献：本論文は、以下の点において、人間科学に対する貢献がある。
- 3.6.1 医療・看護領域における人材育成は人間科学の重要なテーマの一つである。本研究では、その人材育成の要となる研修設計の手法とその効果について新たな知見を提示しており、人間科学に対して貢献していると考えられる。
- 3.6.2 本論文では、研究を実際の医療現場において実施しており、リアリティが高く、応用範囲が広い実践的な研究という点で、人間科学に対する貢献が高いと考えられる。
- 4 本論文の内容（一部を含む）が掲載された主な学術論文・業績は、以下のとおりである。
- 杉浦真由美，向後千春：2013 シナリオ型ビデオ教材と実習を組み合わせた造影剤副作用発現時の対応に関する研修の効果．日本教育工学会論文誌，36巻4号，429-438頁．
- 杉浦真由美，向後千春：2016 新人看護師を支援するプリセプター育成のための研修コースの開発と効果の測定．日本教育工学会論文誌，40巻4号，337-347頁．
- 杉浦真由美，向後千春：2013 eラーニングとシミュレーションを組み合わせた患者急変時対応研修の効果．日本教育工学会報告集，13巻4号，81-88頁．
- 杉浦真由美，向後千春：2016 新人看護師を対象とした失敗体験研修コースの開発．日本教育工学会報告集，16巻1号，205-212頁．

5 結論

以上に鑑みて、申請者は、博士（人間科学）の学位を授与するに十分値するものと認める。

以 上